

# 学位請求論文要旨

日中対照研究から見た中国語母語話者の日本語使役表現の習得

—「使役の日本語教育文法」の提案に向けて—

2019年1月

城西国際大学大学院 人文科学研究科

比較文化専攻

王 瀟瀟

本研究は、日中対照研究から見た中国語母語話者の日本語使役表現についての習得研究である。中国語母語話者の日本語学習者は、日本語の使役表現についてしばしば「李先生は私を事務室へ資料を取りに行かせます」のような語用的な誤りを犯す。それは、日本語の生産的な使役文「せる・させる」が中国語使役表現の「让」構文と似ている意味用法を持つからである。しかし、これまでの日本語教育では主に両者の共通する意味機能について説明するが、一方で、両者は実際にどのような違いがあるかはまだ究明する余地があり、日本語教育においては両者の違いへの説明が足りない。中国語使役表現の「让」構文は中国語母語話者のよく使う表現であるため、それをいかにうまく対応させるかは自然なコミュニケーションにおいても重要な問題であり、対応する日本語表現についてはどのような表現が適切であるかについて十分に検討がなされてきたとはいえない。

そこで、本研究では、このような使役表現に関する諸問題を意識しつつ、主に中国語使役表現の「让」構文に相当する日本語使役表現を事例とし、日本語教育において、使役表現の何を日本語教育文法として教えるべきかを提案することを、研究の目的とする。要するに、本研究では、

- (1) 中国語母語学習者の使役表現の習得の現状とその要因を明らかにすること
- (2) 「使役の日本語教育文法」を提案すること

という2つの研究目的がある。

そして、本研究の2つの大きな目的を達成するために、以下の①中国語使役表現の「让」構文と日本語使役表現の意味用法の対照②日本語母語話者の使役表現の使用実態の調査③中国語母語学習者の使役表現の理解と産出における習得状況④日本語教育の現場における使役表現の指導状況と提案の4つの下位課題を設け、調査を行う。

本研究で使役表現として考察の対象となったのは、中国語では使役表現の「让」構文であり、日本語では柴谷（1978）と野田（1991）のヴォイスについての論述を参考にし、自動詞文、他動詞文、使役動詞文、授受文、間接引用文、直接引用文、生産的な使役文、受身文、使役+授受文、使役+受身文である。また、野田（1991）の語彙的なヴォイスと文法的なヴォイスの用語を用い、中国語使役表現の「让」構文に対応する10種類の日本語表現を文法的な表現と語彙的な表現に分ける。これを表で示すと次のようになる。

	対応する日本語表現	
中国語使役表現の「让」構文	語彙的な表現	自動詞文
		他動詞文
		授受文
		使役動詞文
		間接引用文
		直接引用文
	文法的な表現	生産的な使役文
		受身文
		使役+授受文
		使役+受身文

本論文は9章に分かれ、各章における具体的な内容は以下の通りである。

第1章では、本論文の研究動機、研究背景、研究目的、研究方法と本研究の全体像を紹介したうえで、本研究の位置づけを試みた。

筆者は実際の日本語教育現場で、文法的には正しいが不自然で、同じ状況で日本語母語話者なら普通は生産的な使役文「せる・させる」を使わないのが数多く現れる。しかし、今までこうした中国語使役表現の「让」構文に相当する日本語使役表現の習得研究はほとんど行われておらず、また有効な指導の方法についても研究が遅れている。

そこで、本研究では、日本語教育における日本語使役表現の指導に応用できる基礎研究として、多様な用法を持つ使役表現とその関連表現を研究対象として、日本語使役表現とその関連表現の意味構造を分析した上で、中国語使役表現の「让」構文と比較し、これらの結果を用いて、中国語使役表現の「让」構文に相当する日本語使役表現の習得と教育のあり方について日本語教育文法の立場から考察する。

第2章と第3章では、日本語学文法と習得研究における使役表現研究を概観した。まず中国語の使役表現に関する研究を概観し、中国語の使役表現の中に使役者も被使役者も人である典型的な使役表現の「让」構文に重点をおいて、意味分類と構文特徴について先行研究をまとめ、それを日本語使役表現の「せる・させる」と連想しやすい原因を分析した。また、日本語の使役表現に関する研究を、ヴォイス、自動詞・他動詞、使役表現の本体研究、認知言語学における使役表現に関する研究の流れで、意味分類的な特徴をまとめた。中国語の使役表現「让」構文が一般的に使役者の立場から事態を捉えるので、場面と人称関係の変化によって、日本語のヴォイスとのずれがあると考えられる。さらに、認知言語学のプロトタイプと捉え方理論を利用し、日本語母語話者と中国語母語話者の使役表現の心理的なプロトタイプと人称関係の変化による捉え方の違いを考察する。最後に、中国語母語学習者にとって、語用論的な誤りを避けるために、使役の場面を「強制・命令」・「許可・許容」に、使役者と被使役者の人称関係を話し手、聞き手、第三者に分けて分析する研究がまだ足りないことを述べた。

第4章では、中国語の「让」構文と日本語使役表現との対照研究を行った。まず中国語母語学習者の母国語としてのコーパス『北京大学漢語言語学研究中心コーパス』(CCL)と『北京日本学研究中心「日中対訳コーパス」』(BJSTC)の中国語が原文、日本語が訳文であるコーパスに着目して、各人称関係の「让」構文の特徴について検討を行った。そしてその分析結果を『北京日本学研究中心「日中対訳コーパス」』(BJSTC)の日本語が原文、中国語が訳であるコーパスの調査結果によって検証し、中国語使役表現の「让」構文と日本語使役表現における「意味機能」の類似と「使用範囲」の異同について考察した。その結果から、中国語原文の「让」構文と対応する表現には、生産的な使役文の割合が最も高いが、日本語原文の「让」構文と対応する表現には直接引用文の割合が最も多く、他動詞文、語彙的な使役動詞文、授受文も少なくない。また、「让」構文と対応する表現には、生産的な使役文の割合は他の対応する表現の割合の合計より非常に少ない。つまり、教科

書や参考書で、中国語の「让」構文で日本語の使役表現を説明するのには問題がある。それを解決するために、中国語使役表現の「让」構文の人称関係別で主に対応する日本語表現と、文法的な表現と語彙的な表現との対応状況をまとめた。

第5章では、日本語母語話者の使役表現の使用実態について、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ)と『名大会話コーパス』を利用し、日本語母語話者における使役表現形式、生産的な使役文の使われる場面、人称関係ごとの使用率、そして、使役表現によく使われる動詞の種類のみから考察し、分析した。この結果を用いて使役の日本語教育文法の改善に向けて提案する。

第6章では、中国語母語学習者の日本語使役表現のプロトタイプと使役表現への理解と産出の習得状況について、自由産出文、受容度判断調査、絵を使用した文生成テスト調査とフォローアップインタビューを通して考察した。まず、中国語母語学習者にとって生産的な使役文が最もよく使われるのに対して、日本語母語話者にとっては語彙的な表現がよく使われることと、「許容の使役」用法において、中国語母語学習者は日本語母語話者より生産的な使役文を多く使っていることから、使役表現の使用範囲にずれがあることが分かった。また、受容度調査を行い、日本語母語話者の調査結果と比べることによって、語用論的な面においては、学習年数が増えるにもかかわらず、中国語母語学習者の習得状況の改善があまり見られなかったことと、中国語母語学習者の使役表現の使用範囲が日本語母語話者と違いがあること、人称関係別で日本語母語話者との差が違ってくるということが分かった。また、絵を使用した文生成テスト調査で、「指図の使役」と「許容の使役」の場面において、学習歴別の中国語母語学習者は全体的に日本語母語話者より、文法的な表現を用いる率が高いことと、「許容の使役」の場面において、中国語母語学習者は日本語母語話者と表現の差が著しいことが分かった。

つまり、中国語母語話者は日本語使役表現を使うべきところでの使用率が低く、日本語使役表現を使うべきではないところで使役表現を使ってしまうことから、日本語使役表現の指導と教科書に不備などがあると考えられる。

第7章では、調査資料となる6冊の教科書において、文法説明と練習問題で取り上げられている動詞、使役文法の説明、例文の特徴、練習問題の傾向のみから、考察を行った。どの教科書も同じ順序で使役表現を扱っており、活用形と文型の習熟度練習を中心とすることがわかった。つまり、使役表現の形式についての説明は十分になされているが、意味機能について、どの場面にどのように使うかについての用法への説明が足りないことがわかった。また、日本語教師へのインタビュー調査を通して、教育現場において日本語教師は日本語使役表現をどのように指導しているかが明らかになった。しかし、教科書の使役表現における問題点を日本語教師の指導で補うことができていないことがわかった。

第8章では、中国語母語学習者がよく使っている教科書、参考書の日本語使役表現の問題点と日本語教師の使役表現の指導の不足点を指摘したうえで、日本語使役表現の指導はどう行われるべきかを使役の日本語教育文法に向けて、意味機能、関連表現の説明、文法

説明に追加すべきこと、練習問題の面から提案した。そして、使役表現の習得における学習者の問題点の解決例を示した。

第 9 章の終章では、本研究で考察した内容と見解をまとめた上で、本研究の意義と今後の課題を述べた。